

NETIS登録番号	技術名称	オートグラウトホール			
QS-090010-V	副題	樋門の空洞量自動計測調査孔			
分類1	共通工	ボックスカルバート工	躯体工	キーワード:安全・安心,コスト削減,生産性の向上,環境	
分類2	調査試験	構造物調査	非破壊試験、調査		
開発目標	省人化,経済性の向上				
技術の位置付け	<input type="checkbox"/> 推奨技術 <input type="checkbox"/> 準推奨技術 <input type="checkbox"/> 活用促進技術 <input type="checkbox"/> 設計比較対象技術 <input type="checkbox"/> 少実績優良技術				
特許	<input type="checkbox"/> 有り(特許番号: ) <input checked="" type="checkbox"/> なし				
技術賞, 審査証明等	<input type="checkbox"/> ものづくり日本大賞 <input type="checkbox"/> 国土技術開発賞 <input type="checkbox"/> 学会賞 <input type="checkbox"/> 建設技術審査証明				
問合せ先	会社名	日新興業株式会社		TEL	0982-33-2455
	住所	宮崎県延岡市本小路74		E-MAIL	<a href="mailto:kensaku.makita@nissinkohgyo.co.jp">kensaku.makita@nissinkohgyo.co.jp</a>
	担当者	牧田健作			
実績件数 H25.10.1現在	国土交通省		その他の公共機関		民間等
	10件		1件		1件

技術概要: (300字以内)

本計測器は、既存のグラウトホールにワイヤー付きの沈下計測板を設置したものであり、計測箱内の示度を計測することで底版下空洞量を容易に計測するものである。また、洪水の前後や地震後等、必要な時に直ちに計測が可能である。

技術の新規性について

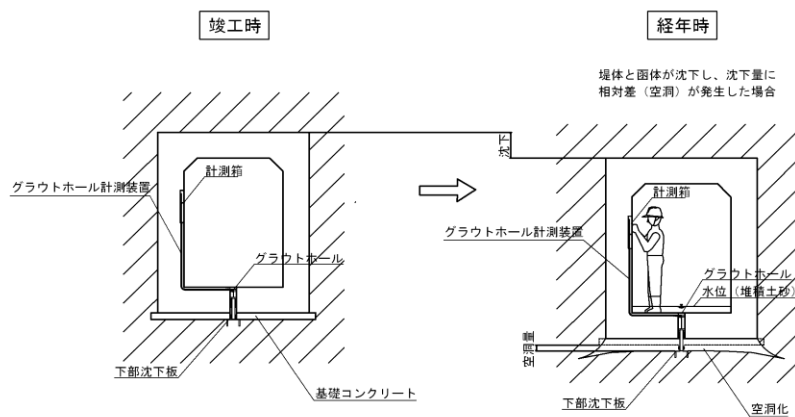
・従来では、底版下空洞量の調査に先立ち、底版の堆積土砂を取り除く事や底版内水位を低下させる準備が必要であり、止水機能が備わっていないグラウトホールでは地下水位が高い場合、グラウトホールのキャップを開ける事で地下水の噴出や土砂の流出が懸念され、またコンベックスによる目視計測では正確な数値が計測出来なかったが、従来のグラウトホールの沈下板に連動する様にワイヤーを設置し、計測箱のなかで示度計(メジャー)の数値を読み取ればよいので前出の土砂や内水の影響を受けずに計測が可能となる。

期待される効果(新技術活用のメリット)

・仮締切や水替え、削孔等の仮設工、準備工が不要な為、それらに掛かる費用がほとんど発生しない。また、高価で複雑な機械等も不要な為人件費や機材費も削減出来る。

・いついかなる時(台風、洪水の前後や地震後等)に直ちに計測が可能である。また、特殊な機械、工具、技術等も全く不要であり人為的な計測誤差も発生しない。

オートグラウトホールの計測状況イメージ



オートグラウトホールの現場設置イメージ



■留意事項

※構造物底版下部に空洞化が発生し、グラウトホールを利用してグラウト注入した場合、以後オートグラウトホールでの計測はできなくなります